(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2006-199435
(P2006-199435A)
(43)公開日　平成18年8月3日(2006.8.3)

(51)Int.Cl.			F I			テーマコード（参考）
B65F	1/00	(2006.01)	B65F	1/00	F	3E023
B65F	1/16	(2006.01)	B65F	1/16		

審査請求 未請求　請求項の数 7　ＯＬ　（全 12 頁）

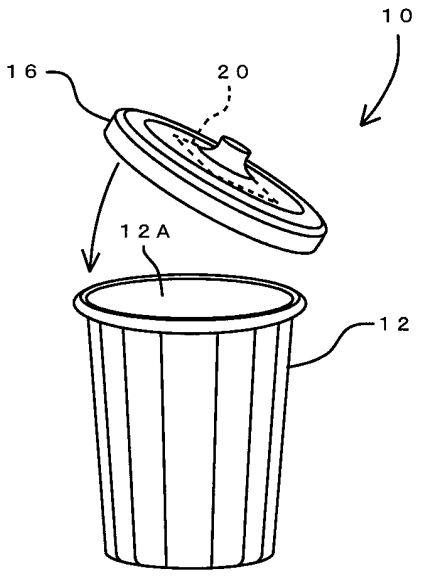
(21)出願番号　特願2005-12910(P2005-12910)
(22)出願日　平成17年1月20日(2005.1.20)

(71)出願人　504147690
畠野　桂司
栃木県足利市小俣町３１６
(74)代理人　100098361
弁理士　雨笠　敬
(72)発明者　畠野　桂司
栃木県足利市小俣町３１６

Ｆターム(参考)　3E023 AA15　MA01

(54)【発明の名称】ごみ箱用消臭装置及び消臭装置付きごみ箱

(57)【要約】
【課題】　糞を入れたごみ箱を家に持ち帰る際、或いは、糞の入ったごみ箱の蓋を開けた場合でも周辺の人に不快感を与えることのないごみ箱用消臭装置及び消臭装置付きごみ箱を提供する。
【解決手段】　ごみ箱用消臭装置２０は、第１保持手段２２と、この第１保持手段２２に係脱可能に係合される第２保持手段３０と、消臭剤４０とを備える。第１保持手段２２は、ごみ箱１０内側に固定可能に構成されている。第２保持手段３０は、消臭剤４０を保持可能に構成されている。
【選択図】　図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
第１保持手段と、この第１保持手段に係脱可能に係合される第２保持手段と、消臭剤とを備え、
前記第１保持手段をごみ箱内側に固定可能に構成すると共に、前記第２保持手段は前記消臭剤を保持可能に構成されていることを特徴とするごみ箱用消臭装置。
【請求項２】
前記第２保持手段は通気性を有する網目部を備えていることを特徴とする請求項１のごみ箱用消臭装置。
【請求項３】
前記第１保持手段の一面には当該第１保持手段を前記ごみ箱内側に固定するための保持部材を設けると共に、他面には前記第２保持手段が係合可能な係合部を設けたことを特徴とする請求項１又は請求項２のごみ箱用消臭装置。
【請求項４】
前記保持部材は、両面接着テープであることを特徴とする請求項３のごみ箱用消臭装置。
【請求項５】
請求項１、請求項２、請求項３又は請求項４のごみ箱用消臭装置の第１保持手段を、両面接着テープにて蓋に接着固定したことを特徴とする消臭装置付きごみ箱。
【請求項６】
請求項１又は請求項２のごみ箱用消臭装置の第１保持手段を固定するための固定部材を設けたことを特徴とする消臭装置付きごみ箱。
【請求項７】
前記固定部材を蓋に設けたことを特徴とする請求項６の消臭装置付きごみ箱。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、ごみ箱内に入れたペットの糞やごみなどから出る悪臭の消臭を行うためのごみ箱用消臭装置及び消臭装置を備えたごみ箱に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
従来家庭で廃棄された生ゴミはごみ箱内に捨てられていたが、ごみ箱内に捨てられた生ゴミからは強烈な臭気が発生して周辺の人に不快感を与えていた。そこでごみ箱から悪臭が拡散してしまうのを防止するため、ごみ箱の蓋の裏面にスプレー容器（この場合消臭剤が封入されている）を配設した消臭ごみ箱が提案されている。消臭ごみ箱の蓋の表面には押圧ボタンが設けられており、この押圧ボタンが操作されると、蓋の裏面に配設したスプレー容器のノズルから消臭剤が下方に向けて噴霧される。これによって、ごみ箱内で発生した悪臭を消臭して、周辺の人に不快感を与えてしまうのを防止していた（特許文献１参照）。
【０００３】
ところで、近年犬や猫或いはウサギなどのペットが飼われるようになってきており、そのペットの糞から発生する強烈な悪臭が拡散すると周辺の人に不快感を与えてしまう。家庭内で排便した糞はトイレに流すなどの処理を行えるが、散歩中にペットが排便した糞は、散歩中でも容易に持ち運びが可能な携帯用の容器や携帯用の糞入れ（以降ごみ箱と称す）に入れ、蓋を閉じて周辺の人に不快感を与えないようにして家に持ち帰り、その糞をトイレに流したり、生ゴミと一緒にごみ箱に捨てるなどの処理が行われていた。
【０００４】
該ごみ箱には各種の形状や大きさのものがあるが、基本的にはごみを入れる容器形状のごみ箱本体と、このごみ箱本体の開口を閉塞するための蓋とから構成されている。ごみ箱の蓋には各種のタイプがあり、足でペダルを踏むことにより蓋を開けるもの、ヒンジタイプの蓋にバネの付いた蓋などがある。特に、携帯用のごみ箱の蓋としては、ごみ箱本体の

開口を蓋に取り付けられたパッキンによって密閉できるものや、パッキン無しでごみ箱本体の開口を蓋で閉塞するものなどがある。

【０００５】

【特許文献１】特開２０００－６２９０４号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【０００６】

しかしながら、前者の消臭ごみ箱はごみ箱内の強烈な悪臭を消臭することができるが、ごみ箱の蓋の裏面にスプレー容器を取り付けなければならないため、消臭ごみ箱自体が大きくなってしまう。このため、ペットの散歩時に持ち歩くのは不便である。

【０００７】

また、後者の携帯用のごみ箱はペットの散歩時に持ち歩くのに便利であるが、散歩途中でペットが排便した糞をごみ箱に入れて家に持ち帰える際、ごみ箱本体と蓋との僅かな隙間から糞の強烈な悪臭が洩れ出して拡散してしまう。この悪臭によって、周辺の人に不快感を与えてしまうという問題があった。特に、糞の入ったごみ箱を車両で持ち帰る際、車両内が糞の悪臭で充満してしまうという問題もあった。

【０００８】

また、ごみ箱本体の開口を蓋に取り付けられたパッキンによって密閉できるごみ箱では、ごみ箱本体と蓋との隙間から糞の悪臭が洩れ出して周辺の人に不快感を与えてしまうという問題は略解消されるものの、家に持ち帰ってから糞をトイレに流したり、生ゴミと一緒にごみ箱に捨てるなどの処理を行うとき、ごみ箱の蓋を開けるとどうしてもごみ箱内に充満している糞の悪臭が周辺に拡散してしまう。このため、やはり周辺の人に不快感を与えてしまうという問題があった。

【０００９】

本発明は、係る従来技術の課題を解決するために成されたものであり、糞を入れたごみ箱を家に持ち帰る際、或いは、糞の入ったごみ箱の蓋を開けた場合でも周辺の人に不快感を与えることのないごみ箱用消臭装置及び消臭装置付きごみ箱を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【００１０】

即ち、本発明のごみ箱用消臭装置は、第１保持手段と、この第１保持手段に係脱可能に係合される第２保持手段と、消臭剤とを備え、第１保持手段をごみ箱内側に固定可能に構成すると共に、第２保持手段は消臭剤を保持可能に構成されていることを特徴とする。

【００１１】

また、請求項２の発明のごみ箱用消臭装置は、上記に加えて、第２保持手段は通気性を有する網目部を備えていることを特徴とする。

【００１２】

また、請求項３の発明のごみ箱用消臭装置は、請求項１又は請求項２に加えて、第１保持手段の一面には当該第１保持手段をごみ箱内側に固定するための保持部材を設けると共に、他面には第２保持手段が係合可能な係合部を設けたことを特徴とする。

【００１３】

また、請求項４の発明のごみ箱用消臭装置は、請求項３において、保持部材は、両面接着テープであることを特徴とする。

【００１４】

また、請求項５の発明の消臭装置付きごみ箱は、請求項１、請求項２、請求項３又は請求項４のごみ箱用消臭装置の第１保持手段を、両面接着テープにて蓋に接着固定したことを特徴とする。

【００１５】

更に、請求項６の発明の消臭装置付きごみ箱は、請求項１又は請求項２のごみ箱用消臭装置の第１保持手段を固定するための固定部材を設けたことを特徴とする。

【００１６】
更にまた、請求項７の発明の消臭装置付きごみ箱は、請求項６において、固定部材を蓋に設けたことを特徴とする。
【発明の効果】
【００１７】
本発明によれば、第１保持手段と、この第１保持手段に係脱可能に係合される第２保持手段と、消臭剤とを備え、第１保持手段をごみ箱内側に固定可能に構成すると共に、第２保持手段は消臭剤を保持可能に構成されているので、例えば一般に市販されているごみ箱に第１保持手段を固定することができる。これにより、消臭装置の付いていないごみ箱に消臭装置を取り付けることが可能となる。従って、消臭剤にてごみ箱内の悪臭を消臭することができるので、ごみ箱から外部に悪臭が洩れ出てしまうなどの不都合を阻止することができ、ごみ箱周辺に悪臭が漂ってしまう不快感を取り除く効果を大幅に向上することができるようになる。
【００１８】
また、第２保持手段は第１保持手段に係脱可能に係合されるので、第１保持手段に係合した第２保持手段を外せば、第２保持手段に保持した消臭剤を容易に交換することができる。これにより、例えば消臭剤の消臭効果が劣化した場合に消臭剤を交換すれば、第２保持手段に消臭効果の高い新たな消臭剤を保持することが可能となる。従って、ごみ箱内に取り付けた消臭剤の消臭効果を常に良好な状態に保つことができ、ごみ箱用消臭装置の利便性を極めて向上することができるようになるものである。
【００１９】
特に、第１保持手段をごみ箱内側に固定可能に構成しているので、例えば、犬などのペットを散歩させる際、ペットの糞を入れて持ち帰るための消臭装置の付いていない携帯用糞入れ或いは容器などの蓋にも消臭装置を取り付けることができる。これにより、ペットの糞を入れたごみ箱から、糞の悪臭が周辺に拡散してしまうのを未然に阻止することができるので、糞の悪臭で他の人に不快感を与えてしまう不都合を防止することができる。また、自動車などでペットの糞を持ち帰る際、自動車内に糞の悪臭が充満してしまうなどの不快感を確実に阻止することが可能となる。従って、ごみ箱用消臭装置の利便性を大幅に向上させることができるようになるものである。
【００２０】
また、請求項２の発明によれば、上記に加えて、第２保持手段は通気性を有する網目部を備えているので、第２保持手段にて保持した消臭剤とごみ箱内とを連通することが可能となる。これにより、ごみ箱内に充満した悪臭を、第２保持手段に保持した消臭剤で確実に消臭することができるようになる。
【００２１】
また、請求項３の発明によれば、請求項１又は請求項２に加えて、第１保持手段の一面には当該第１保持手段をごみ箱内側に固定するための保持部材を設けると共に、他面には第２保持手段が係合可能な係合部を設けたので、例えば一般に市販されているごみ箱内側に第１保持手段を固定し、この第１保持手段の係合部に第２保持手段を係合させることができる。これにより、ごみ箱内に消臭装置を取り付けることができる。従って、ごみ箱内の悪臭を消臭することが可能になって、ごみ箱内の悪臭が周辺に拡散してしまうなどの不都合を未然に防止することができるようになる。
【００２２】
また、請求項４の発明によれば、請求項３において、保持部材は、両面接着テープであるので、例えば、消臭装置を取り付けるための取付具が設けられていないごみ箱内や蓋付き容器内に第１保持手段を接着固定することができる。これにより、一般に市販されているごみ箱内やペットの糞を入れるための容器内に消臭剤を取り付けることができる。従って、絵柄や模様、或いは、色合いなど自分の好みに合った容器をごみ箱として利用することができるようになり、ごみ箱用消臭装置の利便性を極めて向上することができるようになるものである。

【００２３】
また、請求項５の発明によれば、請求項１、請求項２、請求項３又は請求項４のごみ箱用消臭装置の第１保持手段を、両面接着テープにて蓋に接着固定したので、例えば一般に市販されているごみ箱の蓋に第１保持手段を固定し、第１保持手段の係合部に第２保持手段を係合させれば、ごみ箱内に消臭装置を取り付けることができる。これにより、ごみ箱内の悪臭を消臭することが可能になる。従って、ごみ箱内の悪臭が周辺に拡散してしまうなどの不都合を未然に防止することができるようになる。
【００２４】
特に、第１保持手段を両面接着テープにてごみ箱の蓋に接着固定することにより、ごみ箱にごみを入れる際、消臭装置が邪魔になってしまうのを防止することが可能となる。これにより、ごみ箱の使い勝手が悪化してしまう不都合を防止することができるので、ごみ箱用消臭装置の利便性を更に向上することができる。また、例えば従来のごみ箱ではごみ箱本体と蓋との隙間からごみ箱内部の悪臭が外部に洩れ出て周辺に拡散してしまうことになるが、蓋に消臭剤を取り付けることにより、ごみ箱本体と蓋との間に溜まった悪臭を効果的に除去することができ、ごみ箱用消臭装置の利便性を極めて向上することができるようになるものである。
【００２５】
更に、請求項６の発明によれば、請求項１又は請求項２のごみ箱用消臭装置の第１保持手段を固定するための固定部材を設けたので、例えば、請求項７の如く、固定部材を蓋に設ければ、ごみ箱用消臭装置をネジやボルトなどで蓋に固定することができる。これにより、第１保持手段を強力、且つ、確実に蓋に固定することが可能となる。従って、消臭剤がごみ箱から脱落してしまうなどの不都合を確実に防止することができるようになるものである。
【発明を実施するための最良の形態】
【００２６】
本発明は、ごみの悪臭がごみ箱から洩れ出てしまうのを防止するため、ごみ箱内に消臭剤を取り付けることを特徴とする。ごみ箱の蓋に固定した第１保持手段に、係脱可能に係合した第２保持手段に消臭剤を着脱可能に保持するだけの簡単な構造でごみ箱内に消臭剤を取り付けて実現した。
【実施例１】
【００２７】
次に、図面に基づき本発明の実施例を詳述する。図１は本発明の一実施例のごみ箱用消臭装置２０が取り付けられたごみ箱１０の斜視図、図２はごみ箱１０を構成する蓋１６の裏面図、図３は同図２の蓋１６の縦断側面図をそれぞれ示している。ごみ箱用消臭装置２０は、ごみ箱１０内の悪臭を消臭するためのもので、図１に示すように上面に開口１２Ａを有する容器形状のごみ箱本体１２と、このごみ箱本体１２の開口１２Ａを閉塞する蓋１６とから構成されるごみ箱１０内に取り付けられて使用される。
【００２８】
ごみ箱１０は、一般に家庭で生ゴミ入れとして使用されている合成樹脂性のもので、高さ約５００ｍｍ～５５０ｍｍ、直径約４５０ｍｍ～５００ｍｍの大きさのごみ箱本体１２と、このごみ箱本体１２の開口１２Ａを閉塞する蓋１６とから構成されている。このごみ箱１０は図１矢印で示すように、ごみ箱本体１２の開口１２Ａが蓋１６で閉じられることにより、ごみ箱１０内が略密閉できるようになっている。
【００２９】
該ごみ箱１０は、閉じた蓋１６によってごみ箱本体１２内に入れた生ゴミを見えないように構成すると共に、入れた生ゴミが犬や猫或いはカラスなどにより荒らされないようになっている。また、閉じた蓋１６によって、ごみ箱本体１２内に入れた生ゴミの悪臭が洩れ出ないようになっている。しかしこのようなごみ箱１０は、従来例で示した如きごみ箱本体１２と蓋１６との間に僅か隙間が有り、その隙間からごみ箱本体１２内に入れた生ゴミの悪臭が洩れ出てしまっていた。

【００３０】
　また、ごみ箱本体１２と蓋１６との間に例えばパッキン（図示せず）を入れて密閉した場合、ごみ箱本体１２と蓋１６との間から生ゴミの悪臭が洩れ出してしまう不都合は略解消されるが、ごみ箱本体１２内に生ゴミを入れるために蓋１６を外すと、ごみ箱本体１２内に充満している悪臭が周辺に拡散して不快感が発生してしまう。そこで、本発明ではごみ箱１０内に消臭剤４０を取り付けて、ごみ箱１０内の悪臭を吸収或いは消臭して、悪臭がごみ箱１０内から外に洩れ出ないようにしている。
【００３１】
　即ち、消臭装置２０は、図２及び図３に示すように第１保持手段２２と、この第１保持手段２２に係脱可能に係合される第２保持手段３０と、消臭剤４０とを備えている。第１保持手段２２は、厚さ約１ｍｍ～３ｍｍの合成樹脂板にて構成されると共に、一辺が約１２０ｍｍ～１８０ｍｍの略矩形状を呈している。
【００３２】
　該第１保持手段２２の一面には図４に示すように保持部材２４が設けられると共に、他面には図５に示すように係合部２６が設けられている。保持部材２４は、第１保持手段２２の一面及びごみ箱１０の蓋１６に接着固定可能な両面接着テープにて構成されており、この保持部材２４は、第１保持手段２２の一面両側両端に接着固定されている。尚、保持部材２４は第１保持手段２２一面の全面に設けても良い。
【００３３】
　また、係合部２６は断面略コ字状に形成されて第１保持手段２２の両側に対向して設けられると共に、この係合部２６は第２保持手段３０を係合可能に構成されている。第１保持手段２２の両側（この場合、係合部２６に直交する両側）には、半球形のストッパー２３が設けられており、このストッパー２３は係合部２６の面側に所定寸法突出して設けられている。このストッパー２３は係合部２６のコ字状の溝より低く形成されている。また、第２保持手段３０は、第１保持手段２２の他面に設けた断面略コ字状の係合部２６に挿入可能な厚さを呈している。
【００３４】
　また、第２保持手段３０は図６に示すように合成樹脂にて平面略矩形状に形成されると共に、この第２保持手段３０は通気性を有する網目部３４を備えている。詳しくは、第２保持手段３０は、周囲に枠状に形成された枠部３２と、この枠部３２の内側に設けられた網目部３４とから構成されている。
【００３５】
　そして、網目部３４は、第２保持手段３０が第１保持手段２２の係合部２６に挿入され係合された状態で、第１保持手段２２の離間側に所定寸法突出（この場合、消臭剤４０を収納可能な大きさ）している。即ち、網目部３４は後述する消臭剤４０が１個、或いは、複数個保持可能に構成されている。この網目部３４は、第２保持手段３０を合成樹脂にて枠部３２と網目部３４とを一体に成形した成形品でもよく、また、枠部３２に網目部３４同様に構成された別の網（この場合、金網、合成樹脂成形品の網、或いは、紐などにて構成された網など）を接着剤にて接着固定しても差し支えない。そして、この網目部３４に後述する消臭剤４０が１個或いは複数個保持される。
【００３６】
　また、消臭剤４０は、悪臭を吸収することにより消臭する粉状または粒状の吸着性の強い炭素質からなる活性炭、或いは、悪臭を他の好適な香りで中和することにより消臭効果を発揮する消臭剤などから構成されている。尚、活性炭により臭い（悪臭）を消臭する技術、また、他の好適な香りで悪臭を中和することにより消臭効果を発揮する技術については、従来より周知の技術であるため詳細な説明を省略する。また、消臭剤４０は、図示しないが通気性を有する和紙などの袋に所定量入れられて一般に市販されているものが使用される。
【００３７】
　次に、消臭装置２０をごみ箱１０に取り付ける場合には、まず、第１保持手段２２の一

面に設けられた保持部材２４（両面接着テープ）の保護紙を剥がす。そして、第１保持手段２２が貼り付けられる位置となる、蓋１６の内側（ごみ箱本体１２側）の水分や油分及びホコリなどの汚れを綺麗に拭き取る。次に、水分や油分及びホコリなどの汚れを拭き取った位置に保持部材２４を貼り付け、第１保持手段２２を蓋１６に接着固定する（図７、図８）。このとき、係合部２６の一側から蓋１６の縁までの寸法は、第２保持手段３０が挿入できる隙間を空けておく。尚、係合部２６の一側から蓋１６の縁までの寸法に、第２保持手段３０を挿入できる隙間があれば、第１保持手段２２が蓋１６の略中央に位置するように貼り付けても差し支えない。

【００３８】

そして、第１保持手段２２を蓋１６に貼り付けて固定したならば、図９に示すように網目部３４に消臭剤４０が複数（実施例では３個）入れられて保持される。そして、消臭剤４０が保持された第２保持手段３０は、図１０に示すように蓋１６に保持部材２４にて貼り付け固定された第１保持手段２２に保持される。詳しくは、第２保持手段３０の枠部３２が、蓋１６に固定された第１保持手段２２の係合部２６に挿入され係合される。尚、図９、１０ではごみ箱１０を図示していない。

【００３９】

係る第１保持手段２２には前述した如き突出したストッパー２３が設けられているので、係合部２６に挿入され係合された第２保持手段３０の枠部３２は、ストッパー２３にて保持部材２４の離間側に押され僅か撓むこととなる。この場合、係合部２６内に挿入された枠部３２は、動作し難くなり、ごみ箱１０の蓋１６を開け閉めして、消臭装置２０が斜めに傾いた場合でも、第１保持手段２２の係合部２６から第２保持手段３０の枠部３２が脱落してしまうのを防止することができる。これによって、消臭剤４０を安定してごみ箱１０の蓋１６に保持することができる。

【実施例２】

【００４０】

次に、図１１には本発明の他の実施例のごみ箱用消臭装置２０を示している。この場合、消臭装置２０は前述の実施例と略同じ構成を有している。以下、異なる部分について説明する。尚、前述の実施例と同じ部分にはこれと同じ符号を付し、説明を省略する。ごみ箱１０は、図１１に示すように手で持って吊したり、或いは、腰などに吊して持ち運び可能な容器（携帯用のごみ箱）を用いている。

【００４１】

該携帯用のごみ箱１０は、犬などのペットの糞などのごみを入れて容易に持ち帰ることができる大きさのもので、高さ約１７０ｍｍ～２３０ｍｍ、直径約５０ｍｍ～１００ｍｍ程度の合成樹脂製容器にて構成されている。このごみ箱１０の蓋１６の内側に前述同様消臭装置２０が取り付けられる。この場合、蓋１６と消臭装置２０は、図示しないがループとフックの噛み合わせによって相互に着脱自在に構成された、所謂マジックテープ（登録商標）によって着脱自在に取り付けられる。

【００４２】

そして、マジックテープ（登録商標）の一方を両面接着テープ（図示せず）によって蓋１６に接着固定し、他方を第１保持手段２２或いは第２保持手段３０の枠部３２に両面接着テープ（図示せず）にて固定する。この場合、第１保持手段２２を用いずにマジックテープ（登録商標）の他方を第２保持手段３０の枠部３２に直接接着固定する方が第１保持手段２２が不要になるので好ましい。尚、４２はハンドストラップで、このハンドストラップ４２はごみ箱本体１２に取り付けられてごみ箱１０を吊して持ち運びするために用いられるものである。

【００４３】

また、蓋１６にはパッキン４４が設けられており、このパッキン４４によって蓋１６はごみ箱本体１２の内側に密閉される。このように構成されたごみ箱１０としては、一般に市販されている形状や色合いなど自分の好みに合った携帯可能な容器を用いることができる。このように、携帯用のごみ箱１０においても蓋１６に設けたパッキン４４によって、

ごみ箱１０内に入れたペットの糞などのごみの悪臭がごみ箱１０から外部に洩れ出てしまう不都合を防止することができる。また、一般に市販されている携帯可能な容器の蓋１６の内側に消臭装置２０を取り付けてごみ箱１０（携帯用糞入れ）として使用することができるので、ごみ箱用消臭装置２０の利便性を更に向上させることができる。他前述同様の効果も得ることができる。

【実施例３】

【００４４】

次に、図１２には本発明の他の実施例のごみ箱用消臭装置２０を示している。この場合、消臭装置２０は前述の実施例１と略同じ構成を有している。以下、異なる部分について説明する。尚、前述の実施例１と同じ部分にはこれと同じ符号を付し、説明を省略する。そして、図１２に示すように持ち運び可能な設置型の容器（設置型糞入れ）をごみ箱１０としている。

【００４５】

設置型のごみ箱１０は、犬や猫などのペットが糞をするときに使用するもので、高さ約１００ｍｍ～１５０ｍｍ、一辺が３００ｍｍ～６００ｍｍ程度の合成樹脂製容器が用いられる。このごみ箱１０の蓋１６の内側に実施例１同様消臭装置２０が取り付けられる。この場合、蓋１６と消臭装置２０は保持部材２４によって着脱自在に取り付けられている。他消臭装置２０は前述同様に構成されている。

【００４６】

そしてごみ箱１０を、例えば、外出時車両に積んでごみ箱１０を持って行き、必要に応じて車両の中やペットが糞をする箇所に設置し、そのごみ箱１０の中にペットが糞或いは小便を行い、その後ごみ箱本体１２の開口１２Ａが蓋１６で閉じられる。これにより、ごみ箱１０内の悪臭が消臭装置２０によって消臭されるので、ごみ箱１０を設置した箇所や車両内の中のごみ箱１０から悪臭が洩れ出てしまうのを防止することができる。他前述同様の効果も得ることができる。

【００４７】

このように、第１保持手段２２をごみ箱１０内側に固定可能に構成すると共に、第２保持手段３０は消臭剤４０を保持可能に構成しているので、一般に市販されているごみ箱１０或いは容器などに第１保持手段２２を固定することができる。これにより、消臭装置２０の付いていないごみ箱１０に消臭装置２０を取り付けることができるので、消臭剤４０にてごみ箱１０内の悪臭を消臭することができる。従って、ごみ箱１０から外部に悪臭が洩れ出てしまうなどの不都合を阻止することができ、ごみ箱１０周辺に悪臭が漂ってしまう不快感を取り除く効果を大幅に向上することができる。

【００４８】

また、第２保持手段３０は第１保持手段２２に係脱可能に係合されるので、第１保持手段２２に係合した第２保持手段３０を外せば、第２保持手段３０に保持した消臭剤４０を容易に交換することができる。これにより、例えば消臭剤４０の消臭効果が劣化した場合には、消臭剤４０を交換すれば第２保持手段３０に消臭効果の高い新たな消臭剤４０を保持することが可能となる。従って、ごみ箱１０内に取り付けた消臭剤４０の消臭効果を常に良好な状態に保つことができ、ごみ箱用消臭装置２０の利便性を極めて向上することができる。

【００４９】

特に、第１保持手段２２をごみ箱内側に固定可能に構成しているので、ごみ箱１０内のごみと一緒に消臭剤４０が廃棄されてしまうなどの不都合を防止することができる。また、消臭装置２０をごみ箱本体１２内に取り付けることによりごみ箱１０内に消臭剤４０を取り付けることができるので、例えば、犬や猫などのペットを散歩させる際、ペットの糞を入れて持ち帰るための消臭装置２０の付いていないごみ箱１０或いは携帯可能な容器の蓋１６にも消臭剤４０を取り付けることができる。

【００５０】

これにより、ペットの糞を入れたごみ箱１０から、糞の悪臭が周辺に拡散してしまうの

を阻止することができるので、糞の悪臭で他の人に不快感を与えてしまう不都合を防止することができる。また、自動車などでペットの糞を持ち帰る際でも、自動車内に糞の悪臭が充満してしまうなどの不快感を確実に阻止することができる。従って、ごみ箱用消臭装置２０の利便性を大幅に向上させることができるようになる。

【００５１】

また、第２保持手段３０は通気性を有する網目部３４を備えているので、第２保持手段３０にて保持した消臭剤４０とごみ箱１０内とを連通することが可能となる。これにより、ごみ箱１０内に充満した悪臭を、第２保持手段３０に保持した消臭剤４０で確実に消臭することができる。

【００５２】

また、第１保持手段２２の一面には当該第１保持手段２２をごみ箱１０内側に固定するための保持部材２４を設けると共に、他面には第２保持手段３０が係合可能な係合部２６を設けているので、例えば一般に市販されているごみ箱１０内や容器内に第１保持手段２２を固定し、この第１保持手段２２の係合部２６に第２保持手段３０を係合させることができる。これにより、ごみ箱１０内に消臭装置２０を取り付けることができるので、ごみ箱１０内の悪臭を消臭して、ごみ箱１０内の悪臭が周辺に拡散してしまう不都合を未然に防止することができる。

【００５３】

また、保持部材２４を両面接着テープとしたので、例えば、消臭装置２０を取り付けるための取付具が設けられていないごみ箱１０内や蓋１６付き容器内に第１保持手段２２を接着固定することができる。これにより、一般に市販されているごみ箱１０内や携帯可能な容器内に消臭装置を取り付けることができる。従って、絵柄や模様、或いは、色合いなど自分の好みに合った容器を携帯可能な容器（携帯用糞入れ）として利用することができ、ごみ箱用消臭装置２０の利便性を大幅に向上することができる。

【実施例４】

【００５４】

次に、図１３には本発明の他の実施例の消臭装置２０付きごみ箱１０を示している。この場合、消臭装置２０付きごみ箱１０は前述の実施例１と略同じ構成を有している。以下、異なる部分について説明する。尚、前述の実施例１と同じ部分にはこれと同じ符号を付し、説明を省略する。ごみ箱１０は、図１３に示すようにごみ箱１０の蓋１６に消臭装置２０を固定するためのボス１８（本発明の固定部材に相当）が複数設けられている。この複数のボス１８は、蓋１６に一体に成形されると共に、後述する第１保持手段２２に設けた複数の孔に対向して設けられている。尚、図１３ではごみ箱本体１２を図示していない。

【００５５】

また、第１保持手段２２には複数の孔（図示せず）が設けられており、この孔は第１保持手段２２に接着した保持部材２４の位置に設けられると共に、第１保持手段２２の四隅に設けられている。そして、ネジ１９（この場合ボルトでも差し支えない）を孔に入れ第１保持手段２２を蓋１６のボス１８に固定する。これにより、第１保持手段２２は蓋１６の内側に強固に固定される。そして、第１保持手段２２には前述同様消臭剤４０が保持された第２保持手段３０が係合される。尚、第１保持手段２２をネジ１９で蓋１６に固定する場合は、保持部材２４を使用しない。

【００５６】

このように、消臭装置２０付きごみ箱１０は、第１保持手段２２を固定するための固定部材（ボス１８）を蓋１６に設けているので、ごみ箱用消臭装置２０をネジ１９やボルトなどで蓋１６に固定することができる。これにより、第１保持手段２２を強力、且つ、確実に蓋１６に固定することが可能となる。従って、消臭剤４０がごみ箱１０から脱落してしまうなどの不都合を確実に防止することができる。

【００５７】

尚、実施例では、ごみ箱１０の蓋１６及びごみ箱本体１２の大きさや形状、或いは、寸

法などを記載したが、ごみ箱１０はそれらの大きさや形状、或いは、寸法に限らず、蓋の付いたごみ箱１０や、ごみが入れられる容器であれば上記各実施例のみに限定されるものではなく、この発明の範囲を逸脱しない範囲で他の様々な変更を行っても本発明は有効である。

【図面の簡単な説明】

【００５８】

【図１】図１は本発明の一実施例のごみ箱用消臭装置が取り付けられたごみ箱の斜視図である（実施例１）。

【図２】ごみ箱を構成する蓋の裏面図である。

【図３】同図２の蓋の縦断側面図である。

【図４】ごみ箱用消臭装置を構成する第１保持手段の平面図である。

【図５】同図４の第１保持手段の側面図である。

【図６】ごみ箱用消臭装置を構成する第２保持手段の平面図である。

【図７】第１保持手段を取り付けたごみ箱の蓋の裏面図である。

【図８】同図７のごみ箱の蓋の縦断側面図である。

【図９】消臭剤を第１保持手段に保持する状態を示すごみ箱用消臭装置の側面図（蓋を図示せず）である。

【図１０】同図９の消臭剤を第１保持手段に保持した状態を示すごみ箱用消臭装置の側面図（蓋を図示せず）である。

【図１１】本発明の他の実施例のごみ箱用消臭装置が取り付けられたごみ箱（携帯用のごみ箱）の側面図である（実施例２）。

【図１２】本発明の他の実施例のごみ箱用消臭装置が取り付けられたごみ箱（持ち運び可能な容器）の側面図である（実施例３）。

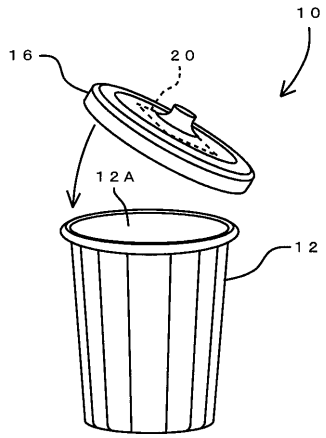
【図１３】本発明の他の実施例の消臭装置付きごみ箱の側面図である（実施例４）。

【符号の説明】

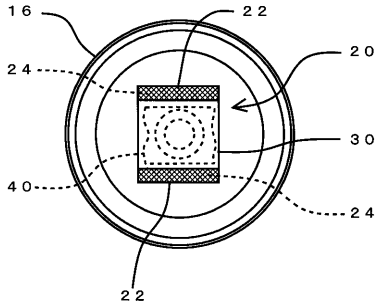
【００５９】

１０　ごみ箱
１２　ごみ箱本体
１６　蓋
２０　消臭装置
２２　第１保持手段
２４　保持部材
２６　係合部
３０　第２保持手段
４０　消臭剤

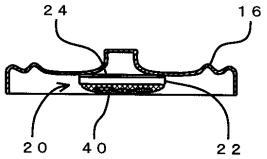
【図１】



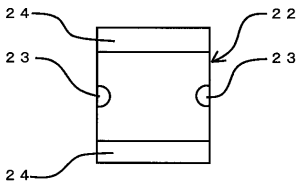
【図２】



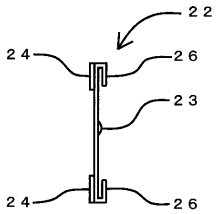
【図３】



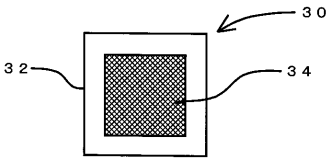
【図４】



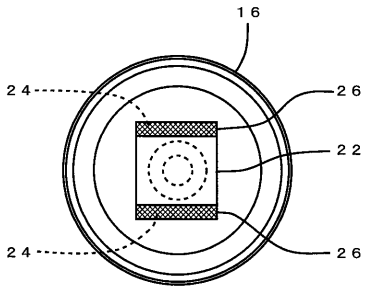
【図５】



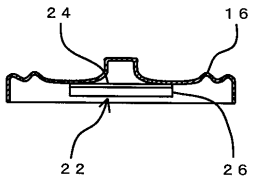
【図６】



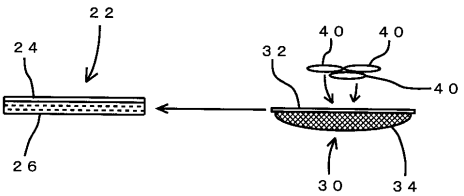
【図７】



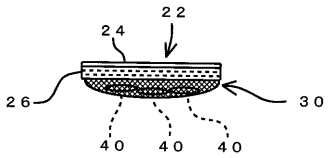
【図８】



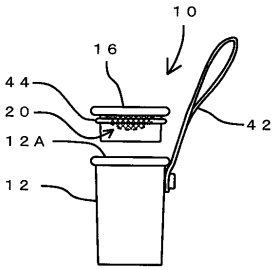
【図９】



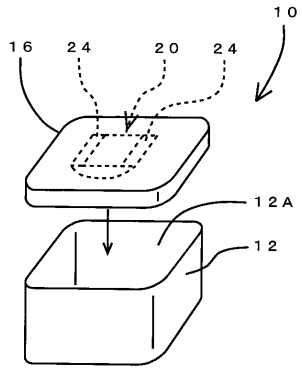
【図１０】



【図１１】



【図１２】



【図１３】

